

### 交通死亡事故ゼロ 一〇〇〇日記念入賞作文

#### こわい交通事故

月潟小学校四年 中村 志保子

私は、四、五才のときにおじさんを交通事故でなくしました。ごはんとときテレビをかえていたら交通事故のニュースがでておじさんが死んだことがわかりました。それから、いつなくなつたか、どのへんの道でなくなつたか、おじさんのときおじさんの顔を見るのがこわくていやでした。いつものおじさんの顔とちがうよういでいやでした。もう死んだ人の顔を見るのはいやです。

交通事故で死ぬのはつかえる体をなくすのとおなじだからいちばんそんなあとと思ひました。

お兄ちゃん、自転車つうがくです。お母さんは、お兄ちゃんが学校へ行くとき、「気をつけて行きなさいよ」といいます。私も、と中で事故にあわなければいいなあとと思ひます。私は、お兄ちゃんにと

んな道をとおって学校へ行くかわからないからなほ、事故にあわなにかと心配です。

私は、家族を交通事故からまもりたいなあとと思ひます。とくに、お父さんとお兄ちゃん、車やバイクにのるし外に出ていることがおおいから心配です。

私は交通事故があつたと聞くときとつとつとします。交通事故がどうしていつぱいおこるのかなあとと思ひます。

私はいろいろ交通事故をおこさないように自分では、左右を見たりして気をつけていると思ひます。

私は、もしも、家の人が交通事故にあつたらどうしようかと思ひます。テレビでよく見る植物人間に家の人や私があつたらどうしようかと思ひます。

私は、テレビで交通事故にあつて入院している人を見ます。うごかれなかつたり、べ

ッドでねているのを見ると、とつてもかわいそうにみえます。

月潟村では、交通事故で死んだ人が千日もないというのです。すごいなあ。りっぱだなあ、と思ひます。それが二千日も三千日もつづけばいい

#### 交通事故の恐ろしさと悲惨さ

月潟中学校一年 近藤 尚 弥

交通事故で死ねた千日達成。それは、三年近くのすく長い年月。その長い年月を、死亡事故を一回も起きずやりとげた。これは、すごいことだとほくは思ふ。

以前に、ほくは交通事故の被害者になろうとしたことがある。でも、死亡までにはいかなかった。それは自転車に乗っているときだ。そのとき、「止まれ」という標識が見えたけど、ほくは車なんかこないだらうと思ひ、そのまま走っていたら、車が急ブレーキをかけて止まり、やくざみたいな人が車から顔を出して、「こらどこに目をつけてんだあぶねえじゃねえか」

た。村の人たちが見ていました。家の人をさがしてもいませんでした。さがしたら、村の親戚にいました。

ほくの親戚がいっぱいいました。ほくの家は、新しい二階建ての家でした。それにまだ建ててから四年しかたつていませんでした。ほくがすごく大事にしていた机やベットがみんままるやけになりました。ほくは、家が焼けてくやしくて、あまり眠れませんでした。

火事の原因は、おじさんのたばこでした。その日は白

なあと思ひます。

月潟村は、あんげんで、きまり正しくていい村だと思ひます。私は、交通事故のない月潟村が大好きです。いつまでもいつまでも交通事故のないことをねがっています。

白根の小学校の子どもたちが、二、三人で自転車に乗っていて、一人の子が右にまがるとき後ろを見ないで曲つて、後ろから車にひかれたのを、ぼくとA君がはつきり見ている。でも、後ろから来た車は、のろのろ運転をしていたので、かるくぶつかつて、足こびをおかしただけのようだった。その車が、五十キロくらい来たたらどうなつたのらうか。これからは、自分だけでなくみんなを気をつけあって、交通ルールを守り、交通事故、交通事故を、ぜったいにおこさず、交通事故ゼロを千日から二千日、三千日と起こさないように、みんなで気をつけていこうと思ふ。

#### 兄の事故から考えること

月潟中学校三年 桜 井 まゆみ

「兄ちゃん、事故があつたてや」六月のある日曜日私が遊びから帰つてくると、ばあちゃんがそう言った。

原因は、車がつかんできたということだがケガは、幸いたいいたことなく、顔の切り傷と肩を打つたぐらいだった。しかし、このケガは、相手だけが悪いといえない。

兄はヘルメットをかぶっていなかったから。

このヘルメットについては、いつも祖母が、口うるさく言

根の市日でしたが、おばあさんが白根へ買物に行つていなければ、こんなことにならなかつたと思ひます。

今は、そうではありませんが、さいしょのときは、道を通ると、村の人にじろろ見られていやなこともありました。

あの火事の時からは、毎日寝る前に火元のでんけんをしてから寝ています。

火事は、恐ろしいです。とても恐ろしいです。

これからも、気をつけていきたいと思ひます。

ました。

しかし、今回この作文を書くことによって祖母の慎重さが、無火災千日達成を達成させたんだと、考えさせられました。

学校では、避難訓練が行われます。出火場所や避難場所の放送があつてから、決められた所へ行くわけです。そこで一つ私が大切だと思ふのは、真剣にやる、ということなのです。

私もそうなんです。本物の火災ではないために、真剣さが半減しているのです。

どうしたらみんなが一生懸命やるのかは、分からないんですが、実際に訓練でやるようなことが起こつたとしたら、あわてず、落ち着いて行動することを頭の中にたたきこまなければいけないと思ひます。

これからも、無火災がずっとずっと続くように、今までの悪かつた点を元の方から改善していき、題にも書いたように「慎重」と「真剣」ということを常に考えながら、火災予防にとめたいと思ひます。

#### 慎重さと真剣さで

#### 無火災千日達成によせて

月潟中学校二年 川井 紀子

昨年の冬、ニュースを見ていて火災の場面がよく写されたのを覚えています。

新聞を読むのは違って、映像でみるというのはそのまま怖さが伝わってきます。

私の家は、夕食時にテレビをつけているのですが、その場面が写つたとき、「わあ、すごいねえ。もううちがこんなになつたらどうする。」この

た。先生がきて、ほくの家が火事になつたと言ひました。ほくは、すぐに家へ帰つて行きました。家についたら、消防車が何台かありました。そして火は消えています。柱がせんぶこげていま

#### 大事な家が焼けて

月潟中学校一年 田辺 博

ぼくの家は、三回も火事になりました。ぼくは、一回目と二回目は生まれていませんでした。三回目は小学校の一年生のときでした。

火事になつた日は、四月二十九日でした。ぼくは学校に

つていたのですが、たいてい兄は「うるさい」と言つてかぶつていかないう事が多かつた。それを見ていた私も、そんなにうるさく言わなくても、自分が気を付ければ、簡単に事故はおきない、というあやふやな考えで、自分が、自転車で白根など行く時もヘルメットをかぶつていかないう事もあつた。しかし今は、自分が気を付ければなどと無責任なことは、言えなくなつたのだ。

相手の方から事故を起こすことがあるからです。

いくら相手の方から起こした事故でも、痛いめにあうのは、自分だということを、これは兄だけでなくバイクを乗る人達みんなに、言いたいことなのです。

毎年バイクでの、交通事故が増えています。それもヘルメットをかぶつていなくて命を失つたと言うニュースをよく聞きます。

幸い月潟村では、そのような死亡事故もなく八月の中ばで交通事故千日達成されます。しかし、死亡事故に至らなかつただけで、小さな事故、一つ間違えば死亡事故につながるっていたものは、たくさんあつたと思ひます。

ここで千日が達成されても、このままでいけば、この記録は、いつ破られるか分かりません。だから今この機会に交通安全というものは、何かというのを、みんなで考えてほしいと思ひます。